

令和3年度（補正予算）

関係人口創出・拡大のための対流促進事業 （中間支援組織の提案型モデル事業）

事業の実施結果 （概要）

団体名	一般社団法人石狩シェアハピシティ計画
事業名	北国の郷土鍋からツナガル「ほっと」な関係人口創出プロジェクト

- 「郷土鍋」をテーマに、アレンジ郷土鍋レシピの開発や郷土鍋フェアの開催、郷土鍋キー食材の生産現場インターンなどを通じて地域と関わるきっかけをつくり、関係人口の創出につなげた。
- また、オンラインの会員制コミュニティ「鍋village」を創設し、オンライン交流会「寄合」などを通じた定期的な交流を促し、関係性を深化させた。

主な活動内容

1. アレンジ郷土鍋の開発、提供

- 石狩鍋（北海道石狩地域）、鳥鍋（北海道森地域）、八戸せんべい汁（青森県八戸地域）、きりたんぼ鍋（秋田県大館地域）を対象として若年層関係人口の創出を図るため、山形県鶴岡市のレストラン「山形アルケッチャーノ」の奥田政行オーナーシェフのアドバイスを受け、北海道三笠高校調理部にて若年層向けアレンジ郷土鍋レシピを開発。
- アレンジ郷土鍋のクッキング動画を撮影し、YouTube及びクッキング動画共有サイト（クラシル）上へアップロード。
- 各郷土鍋地域及び首都圏の飲食店で約1か月間「北国郷土鍋フェア」を開催するとともに、首都圏のフェア実施店舗にて交流イベント「北国鍋フェスinTOKYO」を開催し、各郷土鍋やアレンジ郷土鍋の提供を通じて、地域と関わるきっかけを創出。

2. 郷土鍋地域との各種交流の実施

- 郷土鍋に興味関心をもつ都市住民を中心に、会員制コミュニティ「鍋Village」をFacebook上に創設し、オンライン交流会「寄合」を開催。
- 会員を中心に、オンラインでの郷土鍋クッキングイベント、生産現場インターンや郷土鍋地域を巡る逆参勤交代ツアーを実施。



新たに開発したアレンジ郷土鍋

主な成果

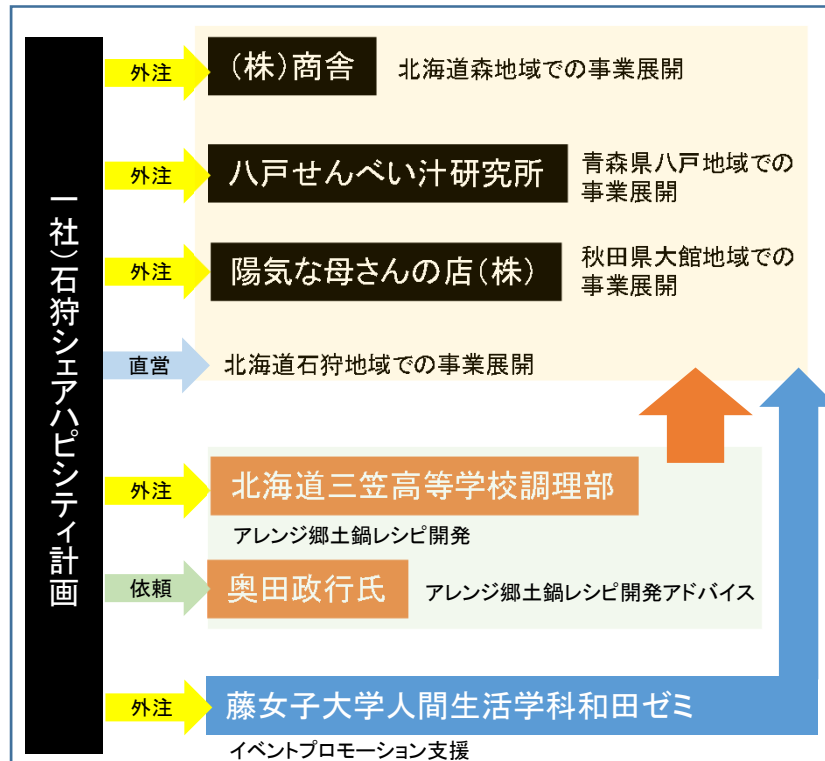
1. 参加者の声等

- 会員制コミュニティ「鍋Village」には122人が参加し、参加者からは、「郷土鍋の名前は知っていても食べたことがなかったので、初めて郷土鍋を食べると同時に、郷土鍋地域とコミュニケーションを取ることで地域のファンになった」というような声が多かった。
- アレンジ郷土鍋を実際に食べた地域住民からは、「最近あまり食べていなかった元祖郷土鍋も食べようと思う」といったような、地域の郷土鍋への愛着を再認識する声が多かった。
- アンケートの結果から、左記の各種活動への参加前後において約95%の参加者が関係性を深化させたことが明らかとなり、特にリアルでの地域住民との交流が図られたことにより、関係性の深まりを実感したといった意見が多かった。

2. 事業を通じて得られた気づきや知見

- 関係人口創出の方法は様々だが、誰もが親しみのある「鍋」というテーマを掲げることで、スムーズに関係人口を創出できた。
- 会員制コミュニティ「鍋Village」について、参加費徴収を検討していたが、今回はコミュニティの機能が双方向での情報交流に限定されていたこともあり、有料化が難しく、参加費無料で運用を開始した。
- 今後は、会員とともにコンテンツの充実に取り組み、有料化を目指すこととしている。

事業実施体制・関係機関



団体・個人名	役割
株式会社商舎	北海道森地域での郷土鍋（烏鍋）を活用した関係人口創出
八戸せんべい汁研究所	青森県八戸地域での郷土鍋（せんべい汁）を活用した関係人口創出
陽気な母さんの店株式会社	秋田県大館地域での郷土鍋（きりたんぼ鍋）を活用した関係人口創出
北海道三笠高等学校調理部	アレンジ郷土鍋レシピ開発
奥田政行氏	アレンジ郷土鍋レシピ開発のアドバイザー
藤女子大学人間生活学科 和田ゼミ	郷土鍋を活用した各種イベント等に係るプロモーション支援
一般社団法人石狩シェアハピシティ計画	北海道石狩地域での郷土鍋（石狩鍋）を活用した関係人口創出及び本プロジェクトのトータルコーディネート

デジタル分野に関する取組状況

- アレンジ郷土鍋のクッキング動画を制作し、動画共有サイト（YouTube）及びクッキング動画共有サイト（クラシル）上へのアップロードを行った。
- 会員制コミュニティ「鍋Village」をSNS（Facebook）上に立ち上げるとともに、オンライン交流会「寄合」を開催した。
- 手軽に郷土鍋を作って食べられるよう、「郷土鍋クッキング教室」をオンライン上で開催した。
- 「北国鍋フェスinTOKYO」開催時に、イベントの様子をYouTubeにてライブ配信した。
- 「逆参勤交代ツアー」開催時に、ツアーの一部をYouTubeにてライブ配信した。



アレンジ郷土鍋クッキング動画撮影

次年度以降の事業展開

- 今年度新たに開発したアレンジ郷土鍋を活用し、元祖郷土鍋とともに郷土鍋周辺地域や都市部におけるプロモーションの展開を次年度以降も継続し、新たな関係人口の創出を図る。
- 具体的には、今年度の郷土鍋フェア参画店舗と緊密に連携を図りながら、店舗の自主事業としての「北国郷土鍋フェア」の継続展開を目指す。
- 今年度Facebook上に新たに創設した会員制コミュニティ「鍋Village」の有料化に向けたコンテンツ拡充を図るとともに、関係人口だけでなく地域側の参加者の増加と、コミュニティにおける関係人口と地域の交流機会の増加を図る。
- 会員制コミュニティ「鍋Village」参加者を巻き込みながら、郷土鍋にまつわる商品開発を目指す。
- 本事業によって創出・拡大した関係人口が、出番と役割を持って定期的に地域を訪問できる関わりしるを明確化し、継続した関係を構築する。
- 今年度のプロジェクトで連携した郷土鍋地域はもとより、全国の新たな郷土鍋地域と連携し、関係人口の創出拡大を図る。

【2023年度以降】

3月～10月：会員制コミュニティ「鍋Village」のコンテンツ拡充の検討
全国の郷土鍋地域との連携模索

7月以降：郷土鍋にまつわる商品開発

9月以降：アレンジ郷土鍋を活用した郷土鍋に係る各種プロモーション展開

11月以降：会員制コミュニティ「鍋Village」の有料化

※随時：関係人口の郷土鍋地域アテンドの実施
(関係人口と地域住民との交流機会の確立)

収入

内容	予算額(円)	備考
助成金	300,000	北海道科学技術総合振興センターの助成を想定
売上(新開発郷土鍋商品)	200,000	@500円×400個
会費	100,000	会員制コミュニティ会費 @1,000円×100人
計	600,000	

支出

内容	予算額(円)	備考
郷土鍋プロモーション	100,000	
郷土鍋新商品開発	500,000	
計	600,000	

自立・自走化にあたっての課題

- プロジェクト推進に向けた財源の確保が必要。
- そのためにも、まずは会員制コミュニティ「鍋Village」の有料化を目指し、コミュニティ参加者も巻き込みながらコンテンツの拡充を図る。
- 会員制コミュニティ「鍋Village」内にて郷土鍋にまつわる商品開発を進め、開発商品の売上を活用しながら、関係人口創出の取組継続及び拡充を図っていく。